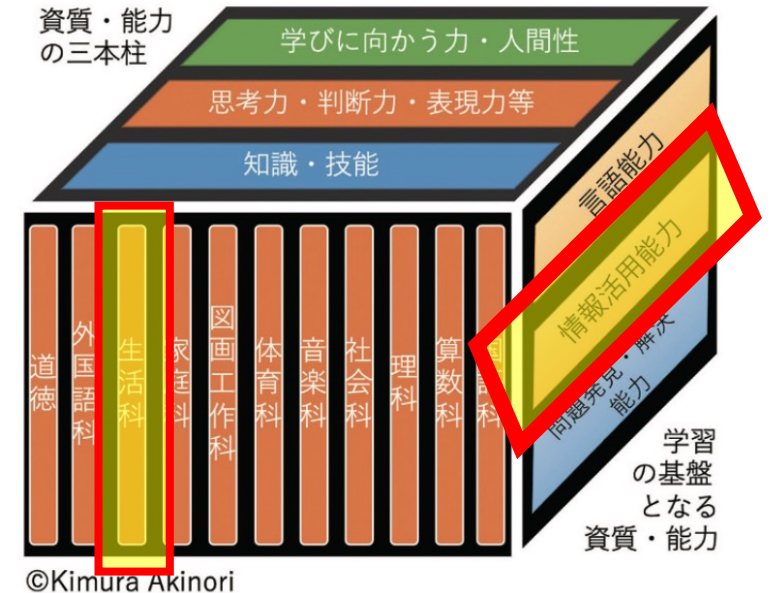


# 学習指導案について

～情報活用能力育成に特化した指導案の作成～

# 昨年度までの指導案の課題点

- 教科学習の指導案をベースに情報活用能力育成の視点を加えていたため、指導案にある情報量が多く分かりにくい。
- 情報活用能力育成の目標が曖昧なため、評価も曖昧になる。



情報活用能力育成に特化した指導案

情報活用能力育成の指導案であることを明記する

- 日時 令和 年 月 日 ( ) 第 校時 ( : ~ : )
- 学年・組 第 2 学年 組 ( 名 )
- 単元名 ぐんぐん そだて おいしい やさい  
【内容 (7) 動植物の飼育・栽培】
- 単元の目標  
継続的に野菜を栽培する活動を通して、これまでの栽培の経験を生かしながら、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付け、植物に親しみを持ち、大切にすることができようとしている。

目標は1文で以下の要素を順番に書く  
① 学習対象や学習活動  
② 態度力・判断力・表現力等の基礎  
③ 知識・技能の基礎  
④ 学びに向かう力・人間性等

・授業の基本情報  
・教科・単元の目標

- 単元の評価規準  
指導するかを踏まえ、目標や評価規準を設定する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 まともなものの	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気付いている。 【内容 (7)】	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。 【内容 (7)】	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。 【内容 (7)】	
単元の評価規準	継続的に野菜を栽培する活動を通して、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	継続的に野菜を栽培する活動を通して、これまでの栽培の経験を生かしながら、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	継続的に野菜を栽培する活動を通して、植物に親しみを持ち、大切にしようとしている。	
小単元ごとの評価規準	ホップ	①身近な野菜について、知っていることを表現したり、伝え合ったりしている。	①身近な野菜について、自ら進んで関心を持ち、関わろうとしている。	
	ステップ1	①それぞれの野菜には、その野菜に適した準備や植え方などがあることに気付いている。 ②野菜には、変化や成長があることに気付くとともに、継続的に世話をすることの大切さに気付いている。 ③野菜の変化や成長について、継続的に観察し、成長に応じて工夫して世話をしている。	②苗や種子の植え方などについて、気付いたことや思ったことを絵や言葉で表現している。 ③野菜の変化や成長の様子について、継続的に観察し、友達の野菜とも比べながら、気付いたことを表現している。	
	ステップ2			児童の思い・願いを大切にしたい単元構成にするため、ホップ・ステップ・ジャンプを「小単元」ととらえて作成する。
	ステップ3	④野菜の成長には、継続的な世話や、太陽光や土などが必要であることに気付いている。	④野菜を収穫したことや野菜を食べたことなどについて、その時の自分の思いなどを表現している。	②野菜を育てることや野菜のある生活について、自ら進んで関心を持ち、これからも積極的に野菜と関わっていかようとしている。
	ジャンプ		⑤これまでの活動について振り返り、したことや、もっとやってみようことなどを表現したり、伝え合ったりしている。	

評価については各小単元に評価があるとは限らない。

単元の評価規準の表は削除  
評価規準を文章にしたものを、7. 指導計画に付け加える

- 日時 令和5年6月22日(木) 第5校時(13:25~14:10)
- 学年・組 第1学年1組(30名)
- 単元名 さかせたいな わたしの はな  
【内容 (7) 動植物の飼育・栽培】
- 単元の目標  
継続的に植物を栽培する活動を通して、植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみを持ち、大切にしようとしている。

時	○学習活動	◆主な発問	子どもの反応	指導のポイント	評価
ホップ	1	○花について、知っていることやこれまでの経験を出し合う。 ◆どんな花を知っているかな。	○花について、知っていることやこれまでの経験を出し合う。 ◆どんな花を知っているかな。	!植物の種子をカードにかく。子どもの発達段階を考慮して、絵での表現を主とした形式の学校にチューリップが咲いているよ。幼稚園でパンジーとかもとのする。いろいろな花を育てたことがあるよ。学校でも育ててみたい③子どもの話したことを教師が添え書きしてもよい。	思
ホップ	2	○育てる植物を決める。 ◆どんな花を育てたいかな。 お姉ちゃんがアサガオを育てていたから、私も育ててみたいな。花壇では、別の花を育てたいね。	○育てる植物を決める。 ◆どんな花を育てたいかな。 お姉ちゃんがアサガオを育てていたから、私も育ててみたいな。花壇では、別の花を育てたいね。		態
ステップ1	3	○種まきの準備をする。 ◆種まきをするには、どんな準備が必要かな。	○種まきの準備をする。 ◆種まきをするには、どんな準備が必要かな。	◆どんなものが必要か、子どもが話し合う機会を設けること いい土を作らないと大きく育たないのだから。アサガオは種で、これまでの経験や知っている木鉢の場合、一鉢に3~4粒を深さ2センチくらいの穴に、一粒ずつ丸い方を上にしてそっと置き、軽く土をかぶせると考えられるようにする。 ◆黒土と腐葉土を混ぜる程度の簡単な土づくりの機会を設けることで、土の重要性に目を向けられるようにする。	思
ステップ1	4	○自分の花の種に合ったまき方で種をまく。 ◆どんなふうにならせたか。 種まきの向きや穴の深さに気をつけるのだったね。ふかふかの土!土を触った後は手を洗うなど衛生面の指導も行う。 ○種まきをして気付いたことや思ったことを絵や言葉で表現する。 ◆これからどんなお世話をするとよいか。 毎日お世話をするといいよ。水をたっぷりあげるといいよ。アサガオとお話するといって2年生が言っていたよ。	○自分の花の種に合ったまき方で種をまく。 ◆どんなふうにならせたか。 種まきの向きや穴の深さに気をつけるのだったね。ふかふかの土!土を触った後は手を洗うなど衛生面の指導も行う。 ○種まきをして気付いたことや思ったことを絵や言葉で表現する。 ◆これからどんなお世話をするとよいか。 毎日お世話をするといいよ。水をたっぷりあげるといいよ。アサガオとお話するといって2年生が言っていたよ。	◆土を触った後は手を洗うなど衛生面の指導も行う。 ◆鉢は子どもが毎日見ることが出来る場所に置くことよい。 ◆管理用務員さんや地域の方などで詳しい人を「花の先生」にお願いしてもらうこともできる。	知

6 単元について

【学習対象や学習材について】

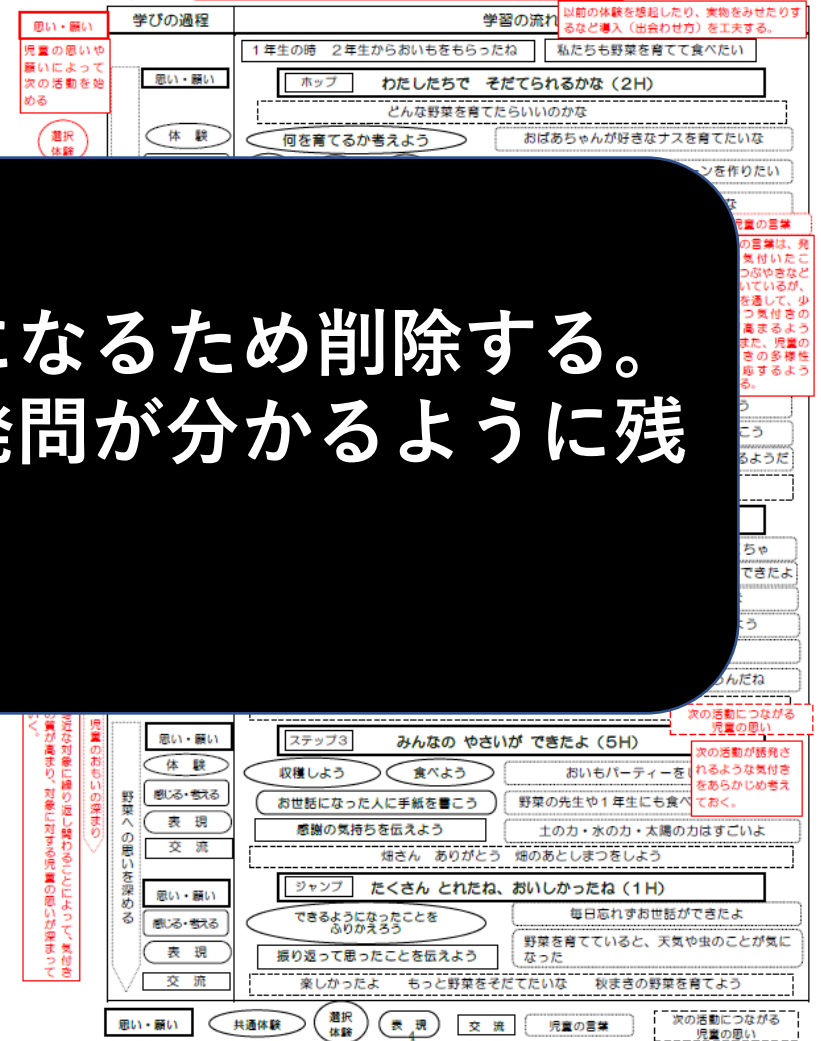
野菜の栽培は、花の栽培に比べると、大がかりな作業が多く、友達と協力することが必要な場面も多い。苗を植えるための土づくりにはじまり、虫がついたり、せっかくできた実が収穫前に病気になったり鳥に食べられたりすることもある。しかし、その分、日頃から慣れ親しみ、毎日食べている野菜が収穫できるという喜びを想像したとき、児童は、その願いの実現のために主体的に野菜と関わっていく。野菜のことで困ったことが起きたら、友達や身近な人に相談し、解決の過程を共有し、喜びや理や願いを共有し、たかや低な野菜を育てていく。野菜を育てていく過程で、野菜の成長の様子や変化を大切に観察し、育てる楽しみや達成感を味わう。野菜の成長の様子や変化を大切に観察し、育てる楽しみや達成感を味わう。

**学習対象や学習材について**  
児童の思いや願い、経験などをふまえて、学習対象や学習材のどんな面を生活か、そのことが、どのように気持ちの育みを高め、児童の資質・能力の育成につながるかを考える。また、児童が学習対象とどのように関わりを深めていくことを望むのか、担任の思いや願いを書くようにする。

をやったり、話しかけたりと親しく接するようにする。そうすることで、児童は次第に心を開かれ、親しみや知的好奇心・探究心をもつようになるだろう。「葉っぱが大きくなったよ。」「ちっちゃな実ができていたよ。」など、様子の変化や新たな発見など、驚きや喜びを感じたとき、児童はそれらを誰かに伝えたいという思いをもつ。本単元では、野菜の世話や観察をするだけでなく、発見や感動、困り等も友達と交流し合う機会を大切にしていく。友達と自分の野菜とを比べることで、その成長の様子の違いや共通点を見付けることができるだろう。また、休み時間や放課後にも、水やりや虫の駆除、枯れた葉の除去などの世話や、収穫をするな

7 指導計画

生活科では、このような単元構想図で、児童の思いや願いからどのような活動を設定するのかをイメージして学習を進める。



**「6. 単元について」は、教科学習の内容になるため削除する。  
「7. 指導計画は、必要な指導時数や主な発問が分かるように残す。**

【深い学びに向けて】

○思いや願いが膨らむ学習を創る

児童は、第1学年の「さかせたいわたしの はな」の学習で、アサガオやチューリップの花を育てた。本単元では、第1学年での栽培活動の経験を生かし、野菜の栽培活動を行う。児童は、1年生のときよりももっと上手に栽培し、自分たちの育てた野菜を収穫したいと願っている。その願いを実現させるために、土、水、日照、肥料といった植物の生育条件にも目を向けるようになることを考える。

単元の導入では、これまでの栽培経験を話したり、教科書を見ながら栽培活動の見通しをもったりすることで、野菜を育てて収穫してみたいという思いを感じられるようにしたい。自分から進んでやってみようという意識は、継続した世話につながる。

児童の一日は、野菜の水やりから始まる。登校した児童は教室に入る前に、植木鉢やプランターにむかう。毎日の栽培活動では、野菜をただ眺めるだけでなく、手で触ったり、水や肥料

の愛着を深めていく。植物も自分たちと同じように命をもっていることに気付き、同じ生命をもつものとして大切にしていけるようにしたい。そして、毎日野菜の世話を続けることのできた自分自身の成長にも気付き、自信をもって生活していくことを期待している。

		茎の下の方は、毛がたくさん生えているよ。今日も元気かな。葉っぱも茎もミニトマトのにおいがする。サツマイモの苗の周りに生えている草をとってあげよう。育てる野菜で、肥料をあげるときが来たんだよ。		
ステップ3	11	○野菜の収穫をし、収穫できた喜びを表現する。 ◆大きくなったね。収穫しよう。家の人に何と言って渡すのかな。少しずつ大きくなって嬉しい。毎日お世話することが大切なんだね。一つ一つ育て方が違うんだ。やっとなミニトマトが1個取れたよ。ちょっとすっぱかったけどおいしかったです。お父さんが「おいしいよ。」って言ってくれました。売っているエダマメより小さいけど、わたしもすごくおいしいと思いました。とげとげキュウリがとれたよ。スーパーで売っているより新鮮だからとげとげしているんだって。やっとなできた。わあ、ピーマンがびびかだ。とげとげしている。たくさんできたから、家に持って帰ろう。早く食べたいな。大きさを測ってみよう。	!学校で食べる場合は、管理職に相談した上で、食物アレルギーや衛生上の観点から、事前に保護者へ連絡しておく。 !家庭に持ち帰る場合は、児童がどのような気持ちで栽培していたかなどを記した、保護者宛の書類を配布する。 !収穫した野菜を学校で食べる場合は、よく洗ってから食べるように指導する。	知④ 思④ 思④
	13	○野菜を食べたり、お世話になった人に感謝したりする。		
	14	◆お世話になった畑の先生にも、たくさん収穫できたことを伝えたいですね。 「畑の先生」にできた喜びを伝えたいな。手伝ってくださった方に大きくなったことを伝えたいね。できた野菜もおすそ分けしたいね。		
	15	○畑の後片付けをする。 ◆畑をきれいにしようね。この土は、おいしい野菜をたくさん育ててくれましたね。 畑さん、たくさんのお野菜を作ってくれてありがとう。これからもたくさんのお野菜を育ててね。		
ジャンプ	16	○これまでの活動を振り返り、したことや、もっとやってみよう。◆どんなことをしたかな。いちばん心に残っているのはどんなことかな。もっとやってみよう。みんなで話してみよう。 ミニトマトはあまり好きじゃなかったけれど、自分で育てて食べたら、とても美味しかった。ナスもピーマンも、花が咲いたところに実ができるんだよ。畑の先生が育てたキュウリは、私のキュウリよりもずっと大きかった。やっぱり畑の先生はすごいな。また野菜を育てたいな。秋から育てられる野菜をみんなで調べてみようよ。	!これまでの活動を振り返り、巻末(p.145)のシールに、本単元でしたことやもっとやってみよう。◆どんなことをしたかな。いちばん心に残っているのはどんなことかな。もっとやってみよう。みんなで話してみよう。 !うまく思いをない子どもにも丁寧に関わりをもち、これまでの経験が、日々の食生活にも生かせるようにするとよい。	
配当外		○秋まきの野菜を決め、育てる。 ◆トマトやナスは、春に種まき(苗植え)をしましたね。これからの季節にはどんな野菜を育てることができるのかな。	!これまでの栽培経験を生かして、秋から育てる野菜の種類や植え方、育て方を調べたり、世話をしたりするよう促す。	
ジャンプ	16	○これまでの活動を振り返り、したことやもっとやってみよう。◆アサガオを育ててみて、できるようになったことやもっとやってみよう。◆お父さんと相談したりしながら、ちゃんとお世話することができました。芽がなかなか出ないので心配しましたがたくさん花を咲かせてくれたお花にありがとうって思いました。とれた種をまた来年もまきたいです。一つの種からたくさん種ができて、種には命が入っていると思いました。どんどん命が増えてずっとつながると思います。		!お父さんと相談したりしながら、ちゃんとお世話することができました。芽がなかなか出ないので心配しましたがたくさん花を咲かせてくれたお花にありがとうって思いました。とれた種をまた来年もまきたいです。一つの種からたくさん種ができて、種には命が入っていると思いました。どんどん命が増えてずっとつながると思います。
配当外		○秋まきの種物から育てるものを選び、栽培する。 ◆春に向けて、どんな花を育てたいですか。 秋から育てる花は色々あるのだね。種だけでなく球根もあるのだね。花が咲いた後はやっぱり種ができるのだろうか。球根はどうだろう。最後まで育ててみよう。		!写真を掲示するなどして、入学した時に学校に咲いていた花を思い出し、誰がそれを育てたのか考えるように促す。

本單元における教科目標の評価規準と記録に残す主な場面

教科の評価規準(3観点)を具体的な評価場面で記述する。

- 本單元における教科目標の評価規準と記録に残す主な場面
- ・知 植物の変化や成長について気付いたことを表現している様子やカード【12・13・14時間目】
  - ・思 植物の世話の仕方について考えている様子が分かる行動やカード【5・6・7・8・9時間目】
  - ・態 進んで関心をもち、これからも積極的に花と関わろうとする発言【16時間目】

- 重点評価場面(例)
- ・知 「野菜の成長や世話をし、気付いたことなどを表現している様子や記録したカード等」【11・12時間目】
  - ・思 「野菜をうまく育てるための工夫を考えている様子やカード等」【6~10時間目】
  - ・態 「今までの学習を振り返り、思いをまとめたカード」【16時間目】

8 本時について (7 / 16 時間目)

(1) 目標

野菜の世話をしたり観察したりして気付いたことや感じたことを友達と伝え合い、野菜の変化や成長の様子、日々の世話の大切さに気付くことができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◆発問	・児童の反応	◇支援 *留意点 ㊟個別支援
○本時のめあてを確かめる。 やさいの ニュースについて つたえ合い おせわのしかたを かんがえよう			*床の鉢につまづいたり、机上の鉢 りしないよう、置き場所に気をつ 支援については、「～することにより、～ 等、目的(活動のねらい)と具体的な手 育てている野菜を実際に持つてき
○活動の流れや仕方を確かめる。 一人一人の顔を思い浮かべながら、予想される児童 の反応をシミュレーションする。教師の声かけや支 援は洗練し必要最小限にする。			くことにより、言葉で言いにくいことも伝え ることができるようにする。
○ペアで、野菜の世話や観察から気付いたこと や感じたことを伝え合う。 ・背がどんどん伸びてうれしいよ。 ・葉っぱを触ったらシャリシャリしてるよ。 ・わたしの野菜と葉っぱの形がちがうね。 ・どうしてこんなによく育ってるの？			◇二人組で伝え合いながら観察する 面的に観察したり比べたりでき る。「努力を要する」状況の児童や 児童への個別の支援を具体的に ㊟やり取りすることが難しい児童に 一緒に表現したり、カードを見せながら表現 したりすることにより、安心して自分の思い を出せるようにする。
気付いたことを基に考えることができるようにするた め、見付ける、比べる、たとえる、試す、見逃す、工夫す る等の多様な学習活動を日頃から行うようにする。			
○友達との話の中で見つけた野菜のニュースを 全体で交流し、世話の仕方について話し合う。 ・○○さんの野菜は背が高くてすごいな。 ・もっと大きくなってほしいな。水をたくさん あげるといいのかな。 ・同じ野菜でも、成長するはやさがちがうよ。 ・お世話の仕方を変えてみようかな。 ・葉っぱに穴が開いているよ。困ったな。 ・くきが伸びてたおれるんだったら、アサガオ の時みたいに支柱を立てたらどうかな。			◇全体交流で、栽培でうまくいったことや困っ たことを出し合って話し合うことで、みんな で改善案や解決策を考えるようにする。 ◇友達の見解について、実物を前に持ってきた り大型テレビに映したりすることで、全員が 関心をもって見られるようにする。 【ICT 活用 (図1)】 ◇全体の場で新たな気づきや思いの高まりを全 員で共有することで、今後の活動への見通し をもち、意欲を高められるようにする。
○本時を振り返り、これからの活動について確 かめる。			◇本時の学びを振り返り、自分が育てる野菜へ

(3) 評価

評価規準は「5 単元の評価規準」で示したものと合わせる。

【知②】	野菜には、変化や成長があることに気付くとともに、継続的に世話をすることの大切さに気付いている。(発言・学習カード)
	「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・記述」
	・ぼくのトマトは、友達のと比べて背が高くて葉っぱも多いです。毎日しっかりと水やりをしていたからだと思います。これからも、おいしいトマトができるように世話をがんばりたいです。 ・くきがたおれるから困っていたけど、アサガオみたいにすればよいことが分かったので、支柱を立てて、まっすぐのにびていけるようにしてあげたら、私のキュウリが喜ぶと思いました。

発言、発意、つぶやき、記述、記録、ノート、学習カード、作品、行動、～の様子等、様々な方法で多面的に子どもの姿をとら

本時でつけたい情報活用能力

● 3つのスキル (活用スキル / 思考スキル / 自己調整スキル) から一つを選択。

● 「活用」場面か「習得」場面かを明記。

● 単元とのつながりを記述する。(いわゆる、教材観)

8 本時について (10 / 16 時間目)

(1) 本時でつけたい情報活用能力

活用スキル	GIGA 端末のカメラアプリを起動して撮影し、情報を集めることができる。	習得場面
-------	--------------------------------------	------

本単元では、生活科で育てているアサガオを題材に観察文を書くという言語活動を通して、必要な情報を集めたり確かめたり力を育成する。本時では、観察記録をつけるためという必然性を持って、GIGA 端末のカメラアプリの使用や、撮影した画像ファイルをフォルダから読みだして閲覧できる活用スキルを育成したい。身に着けた活用スキルは、これからの学習を支える基礎的なスキルとして様々な場面で発揮していくことが期待される。

(2) 目標

GIGA 端末のカメラアプリを使って撮影し、情報を集めることができるようにする。

(3) 展開

○学習活動 ◆発問	・児童の反応	◇支援 *留意点 ㊟個別支援
○あさがおからの手紙を読んで、カメラを使うことへの意欲を持つ。 ◆あさがおから手紙が届いています。 ・どんなことが書いてあるのだろう ・カメラを使えるようにならないといけない。 ○学習のめあての確認をする。 ◆今日はカメラの使い方について学習します。		
カメラでしゃしんをとろう。		
○ギガ端末を使って、カメラアプリを起動する。 ◆まずはカメラの開き方を練習しましょう。 ・カメラアプリを開く練習をする。		◇テレビでギガ端末の画面を共有しながら、指導するようにする。 窓テレビを見ながら起動・撮影が難しい児童には動作補助を行うようにする。
○カメラアプリで写真を撮る。 ◆自分の筆箱を撮影してみましょう。 ・上手に撮影できた。		
○カメラを使う時のルールについて確認する。 ◆カメラで写真撮影することができるようになりました。いつでも何でも撮影していいでしょう。 ・撮ったらだめなものは撮らない ・勝手に写真を撮るのは良くない		*情報モラル・ギガ端末の持ち運び方についての指導を行う。

評価は「情報活用能力育成」の規準で評価をする。木村先生の「情報活用能力育成表」を参考にする。

<p>○本時の振り返りをする。</p> <p>◆今日はカメラの使い方とルールを学習しました。やってみてどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった。</li> <li>・朝顔も写真撮影してみたい</li> <li>・ルールを守って使おう。</li> </ul>	<p>*写真撮影の感想を共有すると共に、カメラを使う時の約束について振り返り、日常生活の中で継続的に取り組んでいくことを確認する。</p>
---	---

(4) 評価

【知】	GIGA 端末のカメラアプリを自分で開くことができる。 カメラアプリを使って、撮影し情報を集めることができる。
「おおむね満足できる」状況と判断できる「活動の様子」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGA 端末のカメラアプリを自分で開くことができる。</li> <li>・カメラアプリを使って、撮影し情報を集めることができる。</li> </ul>	

(5) 板書計画

さかせたいな わたしのはな

☺かめらで しゃしんを とろう。

◎しゃしんを とるとき の るうる

- ・かってに とらない
- ・ひとの かおを とるときは とっても いいか きく

(6) ICT 活用 (図1)

大型テレビに児童用の GIGA 端末の画面を共有しながら指導する。